

令和8年度
栃木県介護生産性向上総合相談センター事業

介護テクノロジー
活用支援セミナー

令和8年6月12日
オンライン・オンデマンド配信

とちぎ福祉プラザモデルルーム
介護のしごとサポートセンターとちぎ
(事業主体) NPO法人 とちぎノーマライゼーション研究会

とちぎ福祉プラザモデルルーム 介護のしごとサポートセンターとちぎ



総合相談

介護テクノロジーに触れながら体験できます

「試してみたい」に応える
試用貸出（一部有償になります）

介護生産性向上などに関する情報発信



導入と活用に向けた
伴走型支援を行います

業務改善に関するセミナーを企画開催します

県内外の支援機関とも連携し課題解決を目指します

とちぎ福祉プラザモデルルーム

介護のしごとサポートセンターとちぎ

栃木県介護生産性向上総合相談センター

お問合せフォームよりお気軽にご相談ください

介護テクノロジー導入相談フォーム >

お問合せフォーム >

メニュー

総合相談

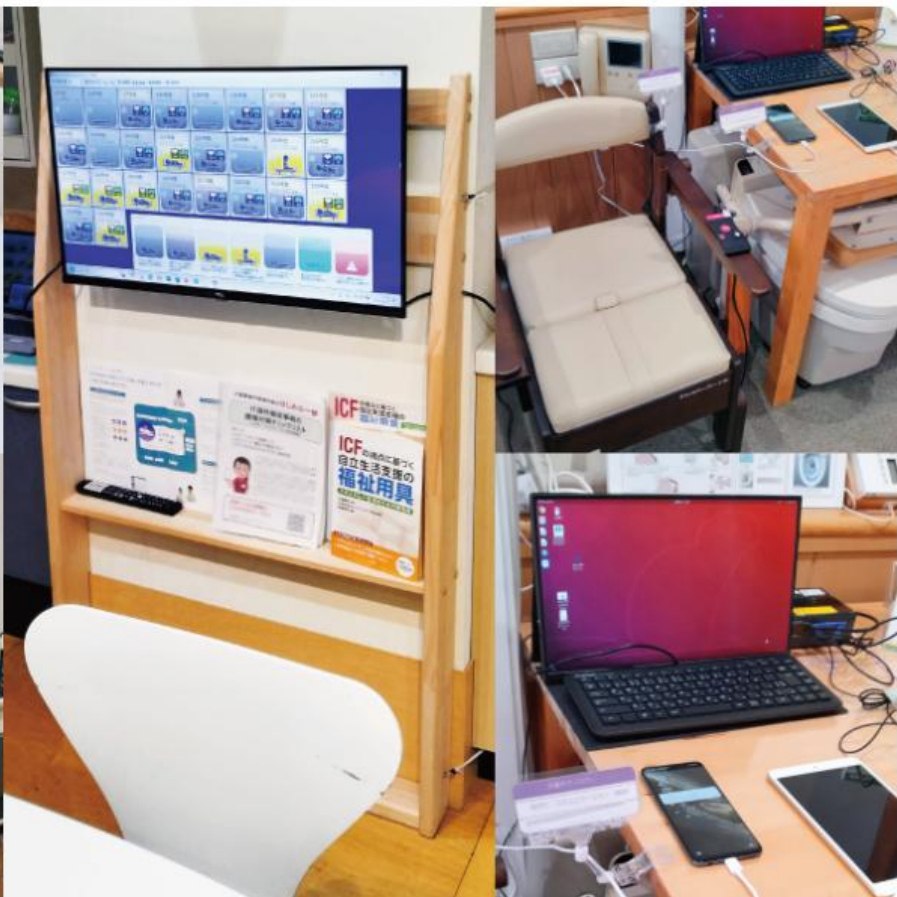
体験展示

試用貸出

研修・セミナー

伴走支援

改善事例



<https://kaisapo.normalization.jp/>

はじめに～介護テクノロジー定着支援事業について

補助要件（4）

栃木介護生産性向上総合相談センターによる業務改善支援

- ①介護テクノロジー活用支援セミナーを受講する
- ②センターに機器の活用状況等を報告し、業務改善に関する取組について相談の上、業務改善計画書を整備する

**介護テクノロジーの導入・定着・活用の相談は
専用の受付フォームからお願いします**

- ①ホームページからアクセス

<https://robot.normalization.jp/>

- ②QRコードからアクセス



はじめに～介護テクノロジー定着支援事業について

よくある質問

①うちの事業所は補助金申請できますか？

交付対象事業所（実施要項3）

- 介護保険法に基づくサービスを提供する全てのサービス事業所（訪問介護事業所や居宅介護支援事業所を含む）
- 老人福祉法に基づく養護老人ホーム及び軽費老人ホーム

○同じ法人で複数事業所でも申請できる？

○特養と空床利用型ショートがあるけど両方大丈夫？

→ 両方ともできます！大丈夫です！

前年度からの変更点

今年度は**同じ事業所番号でもサービス種別ごとに申請可能**です！

〈例〉同じ事業所番号で特養入所とショート

→ 特養とショートそれぞれで申請が可能です

はじめに～介護テクノロジー定着支援事業について

よくある質問

②補助の対象にはどのような機器がありますか？

○福祉用具情報システム（TAIS）に掲載された介護テクノロジー
（実施要項 4 (1)ア）

○その他（実施要項 4 (1)イ）

- ◆ TAISに掲載されていないが介護テクノロジーと機能等が同水準
- ◆ 介護従事者の身体的負担の軽減、業務の効率化に有効な機器

○「TAIS」って何ですか？

◆ **福祉用具情報システム**（福祉用具のデータベース）

「介護テクノロジー」に該当する機器にマークを付けている。
テクノエイド協会のホームページで確認できる。



<https://www.techno-aids.or.jp/>



<https://www.techno-tais.jp/>

はじめに～介護テクノロジー定着支援事業について

公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

Welcome to association for technical aids' home page

サイト内検索 検索 協会紹介 アクセス リンク・著作権・免責事項 個人情報保護方針

障害者自立支援機器
**ニーズ・シーズマッチング
交流会 2026**
作る人と使う人の交流会
どなたでも参加いただけます!
入退場自由・入場無料

Web開催
東京会場
みんな
考えよ

会では手話通訳、要約筆記(手書きノートテイク)、意思疎通支援者が常勤しています。

お知らせ NEW!

- 2026.06.01 福祉用具情報システム(TAIS) 最新情報(令和8年6月1日)を更新しました
- 2026.06.01 福祉用具に係る重大製品事故について(令和8年6月1日現在)
- 2026.05.22 【外部リンク】課題解決型技術開発促進事業の実施について(東京都中小企業振興公)
- 2026.05.14 2026年5月27日より「義肢器具の日」が制定されました。
- 2026.05.07 2027年度 新卒採用のお知らせ

自立支援機器を活用する就労支援プロジェクト

- 2026.05.26 公募説明会の動画を掲載しました **NEW!!**
- 2026.05.01 自立支援機器を活用する就労支援プロジェクトの応募について
- 2026.04.30 応募相談・説明会の開催について
- 2026.04.07 実証評価の結果を掲載しました

障害者自立支援機器「ニーズ・シーズマッチング交流会2026」

- 2026.06.03 交流会の開催について **NEW!!**

福祉用具ニーズ情報収集・提供システム
～みんなで考えよう自立支援機器開発～

パンフレットはこちら

最新情報 2026.6.3 最終更新

要望・アイデア・課題 視覚的にわかる、探し物スマートタグ
私か知らないだけかもしれませんが、あれ?どこ行った?を解決する、スマ...

新製品・技術 在宅排泄介護を劇的に変える、ベッド上「垂直移動」の特許技術(国内優先権ア...
日本のトイメーカー、自費でロボットやAIを開発し、不慣れから「故障

支援機器情報
プラットフォーム

こちらをクリック

(どなたでも受講できます)

福祉用具 **NEW!**
「事故・ヒヤリハット」情

福祉用具情報システム
(TAIS) **NEW!**

- 用具検索 (19,571件)
- 企業検索 (990社)
- TAISへの情報登録
(令和8年6月7日現在)
- (※) 介護テクノロジーを含む。

自助具(生活便利用具) **NEW!**
データベース

福祉用具ニーズ情報
収集・提供システム

福祉用具情報システム (TAIS) **NEW!**

- 用具検索 (19,571件)
- 企業検索 (990社)
- TAISへの情報登録
(令和8年6月7日現在)
- (※) 介護テクノロジーを含む。

はじめに～介護テクノロジー定着支援事業について

福祉用具を探す

[詳細検索はこちらから](#)

今月の新規登録 NEW!



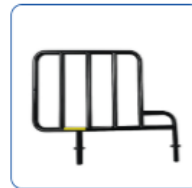
株式会社シコク
BS桜結S中間両手+
連結伸縮手すり+BS
桜結Sエンド両手
TAISコード:01235 - 000363



ハカルプラス株式会社
LoRa無線つながるシ
リーズプレミアムモデ
ル 超音波センサーペ
ンダントセット
TAISコード:01398 - 000069



株式会社ブラッ
見守りセンサー内蔵マ
ットレス
TAISコード:00631 - 001013



株式会社ヤマシタ
YCOサイドレール
(ショートタイプ)
TAISコード:00180 - 000010



パラマウントベッド株
式会社
Gra-Fit ターン
(自走式)
TAISコード:00170 - 002093

[もっと見る](#)

介護保険 の種目から探す



介護テクノロジー のカテゴリから探す NEW!



利用シーン から探す



主な 利用場所 から探す

はじめに～介護テクノロジー定着支援事業について

詳細検索はこちらから ▶

詳細検索

フリーワード

商品名

型番

TAISコード

TAISコードとは

1つ目:

—

2つ目:

—

3つ目:

—

介護テクノロジーのカテゴリから探す **NEW!**

カテゴリー検索



移乗支援 (装着)

移乗支援 (装着)



移乗支援 (非装着)

移乗支援 (非装着)



移動支援 (屋外)

移動支援 (屋外)



移動支援 (屋内)

移動支援 (屋内)



移動支援 (装着)

移動支援 (装着)



排泄支援 (排泄物処理)

排泄支援 (排泄物処理)



排泄支援 (排泄予測・検知)

排泄支援 (排泄予測・検知)



排泄支援 (動作支援)

排泄支援 (動作支援)



見守り・コミュニケーション (施設)

見守り・コミュニケーション (施設)



見守り・コミュニケーション (在宅)

見守り・コミュニケーション (在宅)



見守り・コミュニケーション (コミュニケーション)

見守り・コミュニケーション (コミュニケーション)



入浴支援

入浴支援



介護業務支援

介護業務支援



機能訓練支援

機能訓練支援



食事・栄養管理支援

食事・栄養管理支援



認知症生活支援 認知症ケア支援

認知症生活支援 認知症ケア支援

はじめに～介護テクノロジー定着支援事業について

試用貸出 事業



株式会社知能システム

メンタルコミットロボット パロ

MCR-900

¥423,500

パロは、かわいいや心地よいなど人からの主観的な評価を重視し、人に楽しみや安らぎなどの精神的な働きかけを行うことを目的にしたロボットです。

介護テクノロジー

認知症生活支援・認知症ケア支援

 分類コード
215400

 TAISコード
01396-000001

 発売年月
平成16年12月


詳細へ

ここ

介護テクノロジー

移乗支援（非装着）

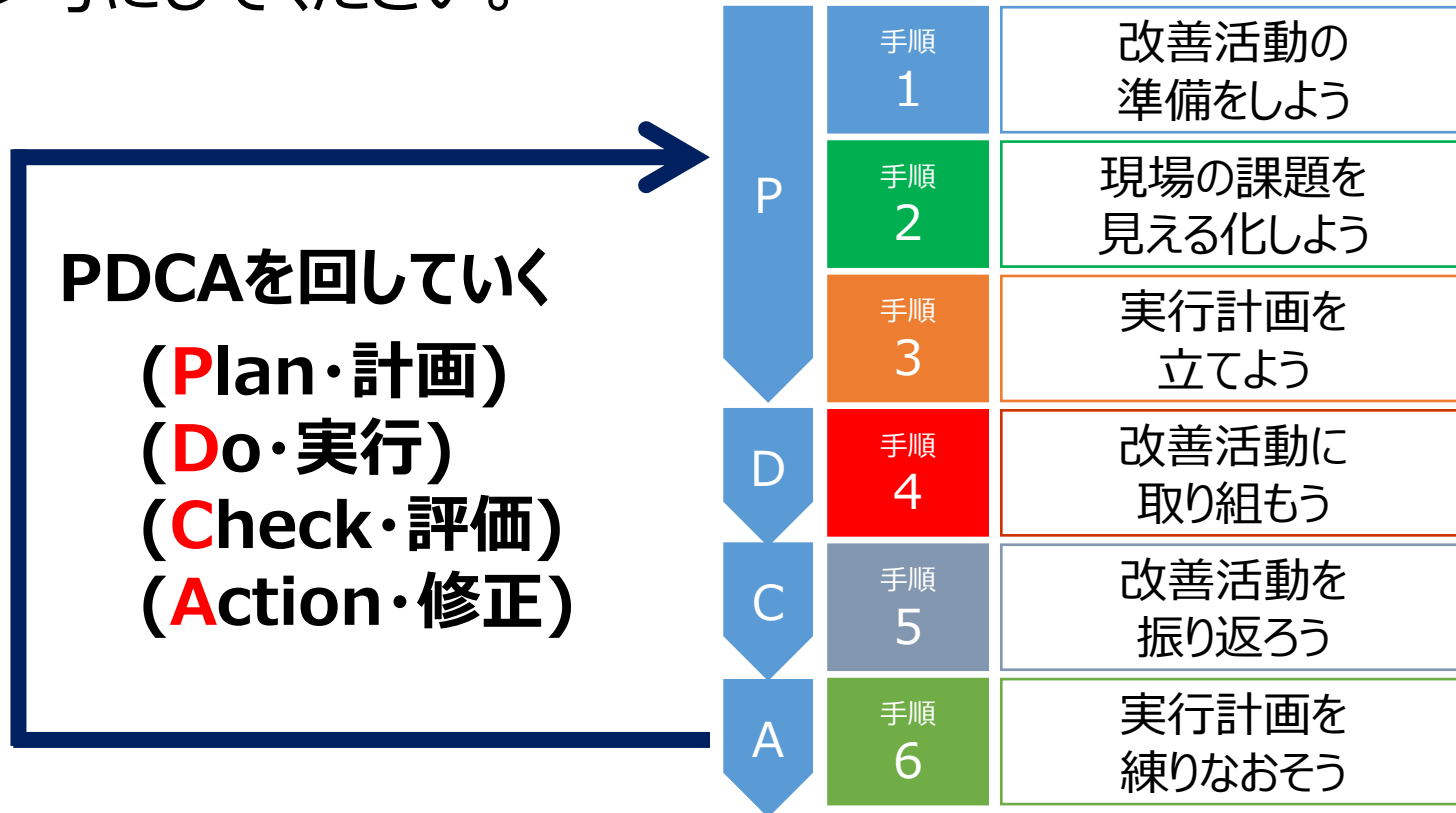
※マークの付いていない製品でも（イ.その他）として補助の対象となり得るものがあります。

はじめに～介護テクノロジー定着支援事業について

よくある質問

③導入にはどのような準備をすればよいですか？

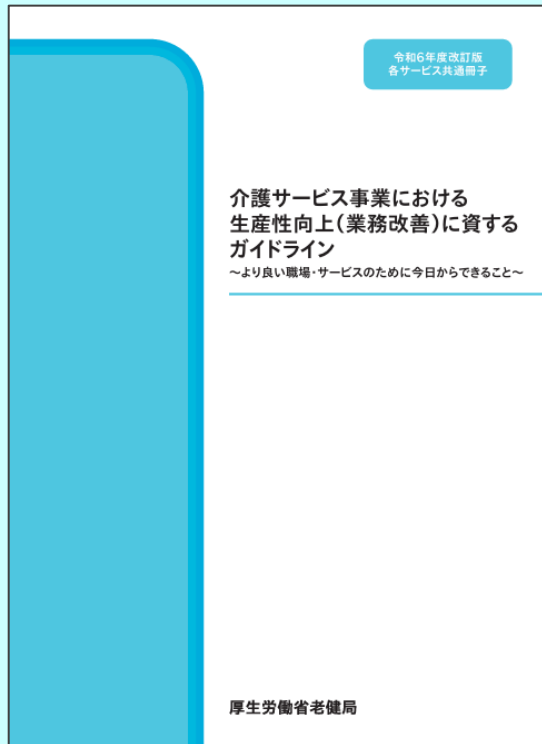
「**業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ**」
を参考にしてください。



はじめに～介護テクノロジー定着支援事業について

○ガイドラインにそった準備活動は**必須**！

令和6年度改訂版
各サービス共通冊子



<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/00154559.pdf>

サービス別冊子

(それぞれの取り組み事例がまとめられています)

施設サービス



<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001545561.pdf>

居宅サービス



<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001545563.pdf>

医療系サービス



〈前半〉
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001545566.pdf>
〈後半〉
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001546625.pdf>



はじめに～介護テクノロジー定着支援事業について

介護分野における生産性向上ポータルサイト



介護分野における
「生産性向上」とは？



介護分野における
「生産性向上」とは？



業務の改善活動の
支援・促し役



業務の改善活動の
支援・促し役



取組に活用可能な各種ツール



取組事例紹介



過去のイベント等



取組に活用可能な各種ツール

取組事例紹介

過去のイベント等

【自治体向け】取組の支援・
普及に向けた推進について

【自治体向け】

取組の支援・普及に
向けた推進について



お知らせ



お知らせ

<https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/index.html>

Chapter 1

直面する課題と介護テクノロジー ～生産性向上の必要性について～

関連する人々の間に温度差はありませんか？

経営者・管理者 ⇔ 職員

若手職員 ⇔ ベテラン職員

ICT得意な職員 ⇔ ICT苦手な職員

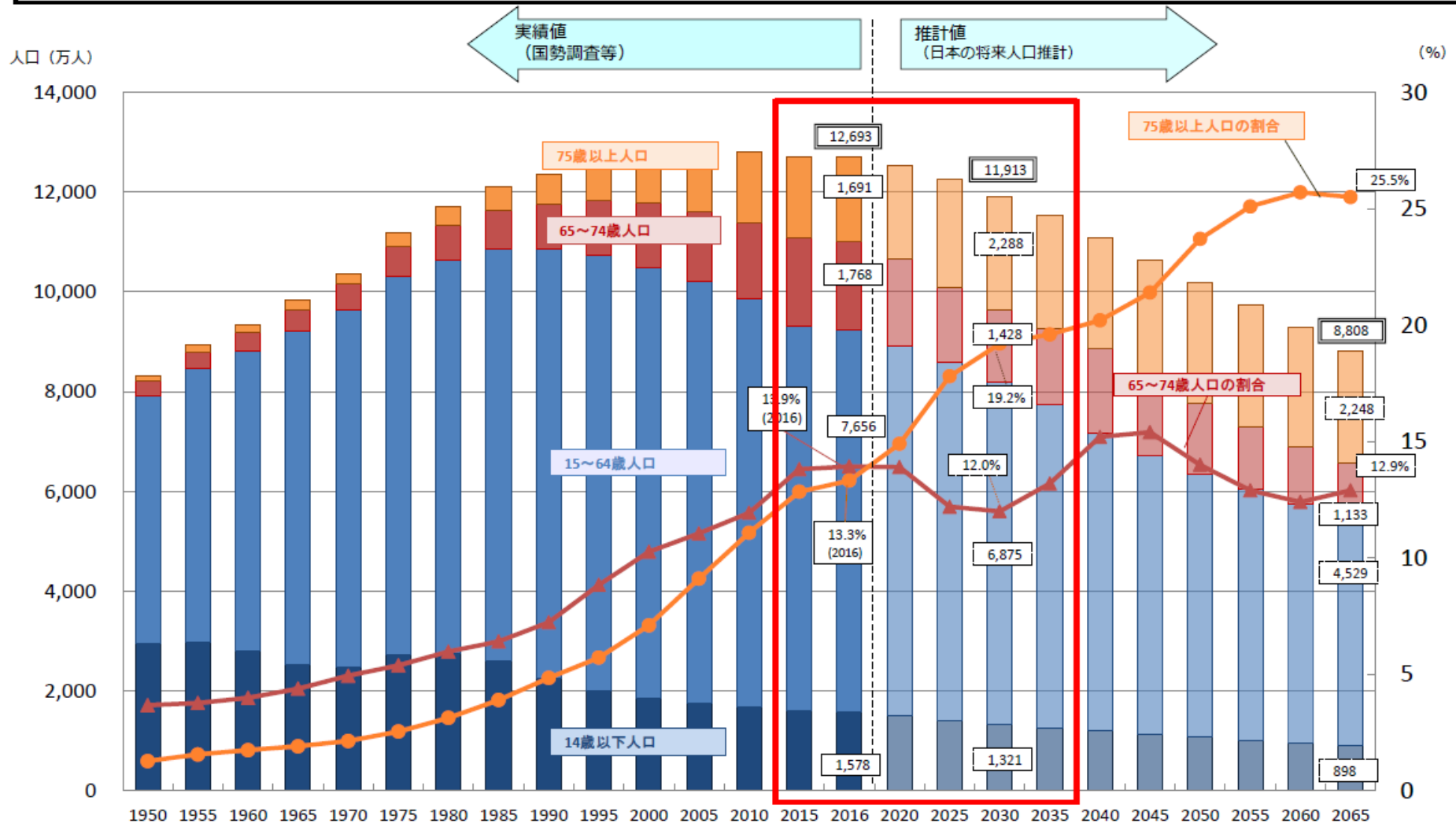
腰痛のある職員 ⇔ 腰痛の無い職員

温度差を埋めるには、いま私たちが置かれた状況をしっかりと理解し、**共有すること**が大切です。

直面する課題と介護テクノロジー～生産性向上の必要性について

総人口の推移

日本の総人口は減少、75歳以上の高齢者は増加



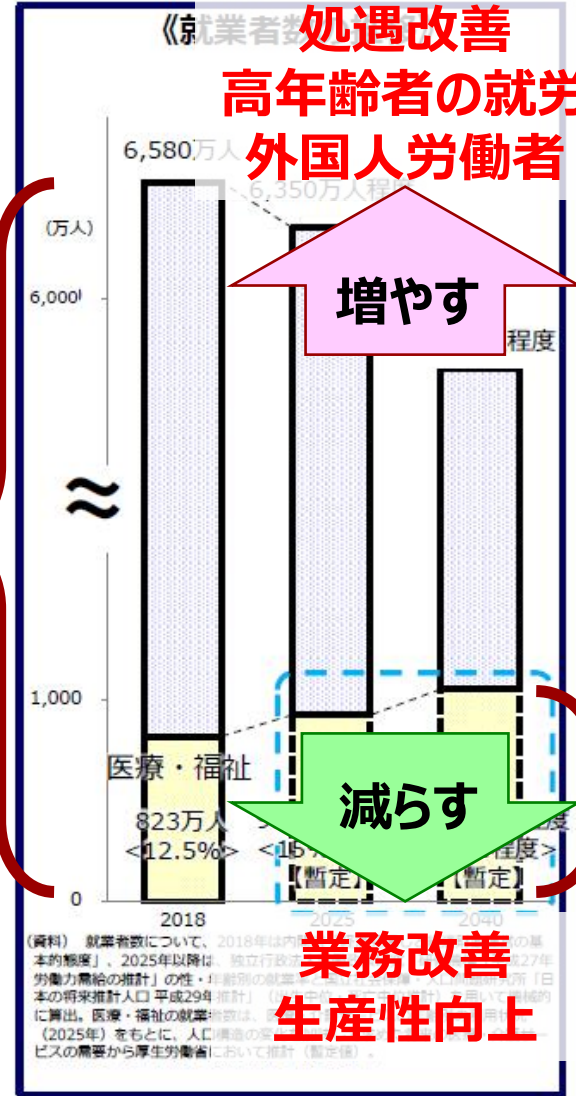
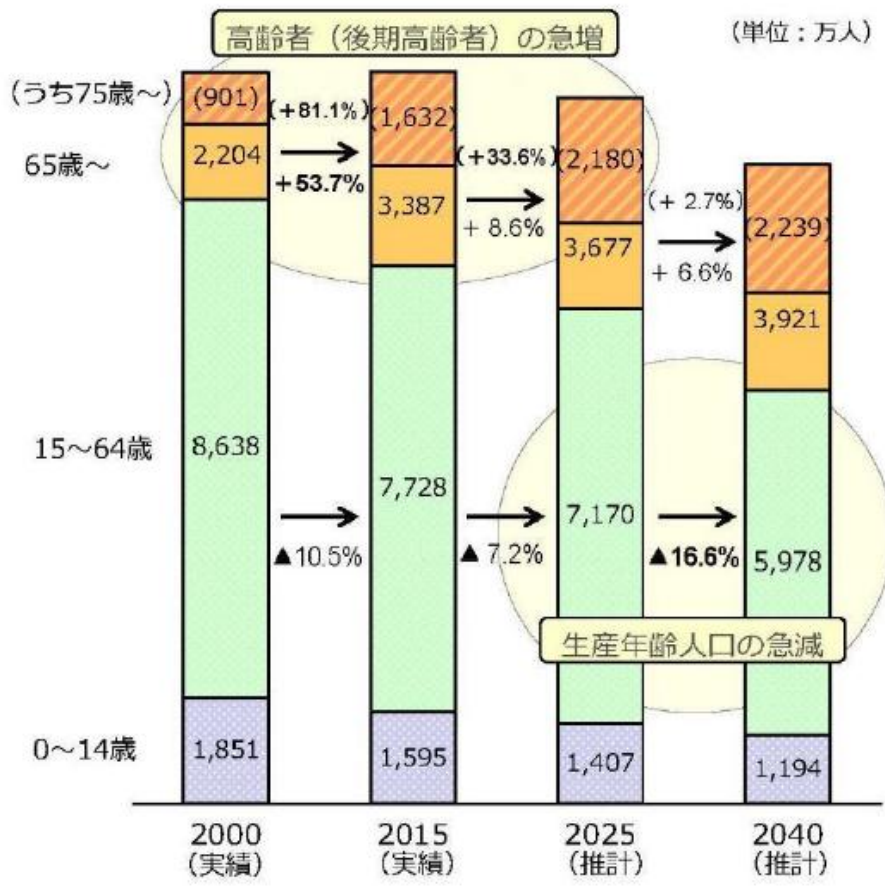
資料：2016年までは総務省統計局「国勢調査」および「人口推計」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年4月推計）中位推計」

直面する課題と介護テクノロジー～生産性向上の必要性について

**生産年齢人口が急減
後期高齢者は増加**

介護で働く人が足りない！

【人口構造の変化】



働ける人の数

増やす

減らす

医療・福祉業界で
必要な数

**業務改善
生産性向上**

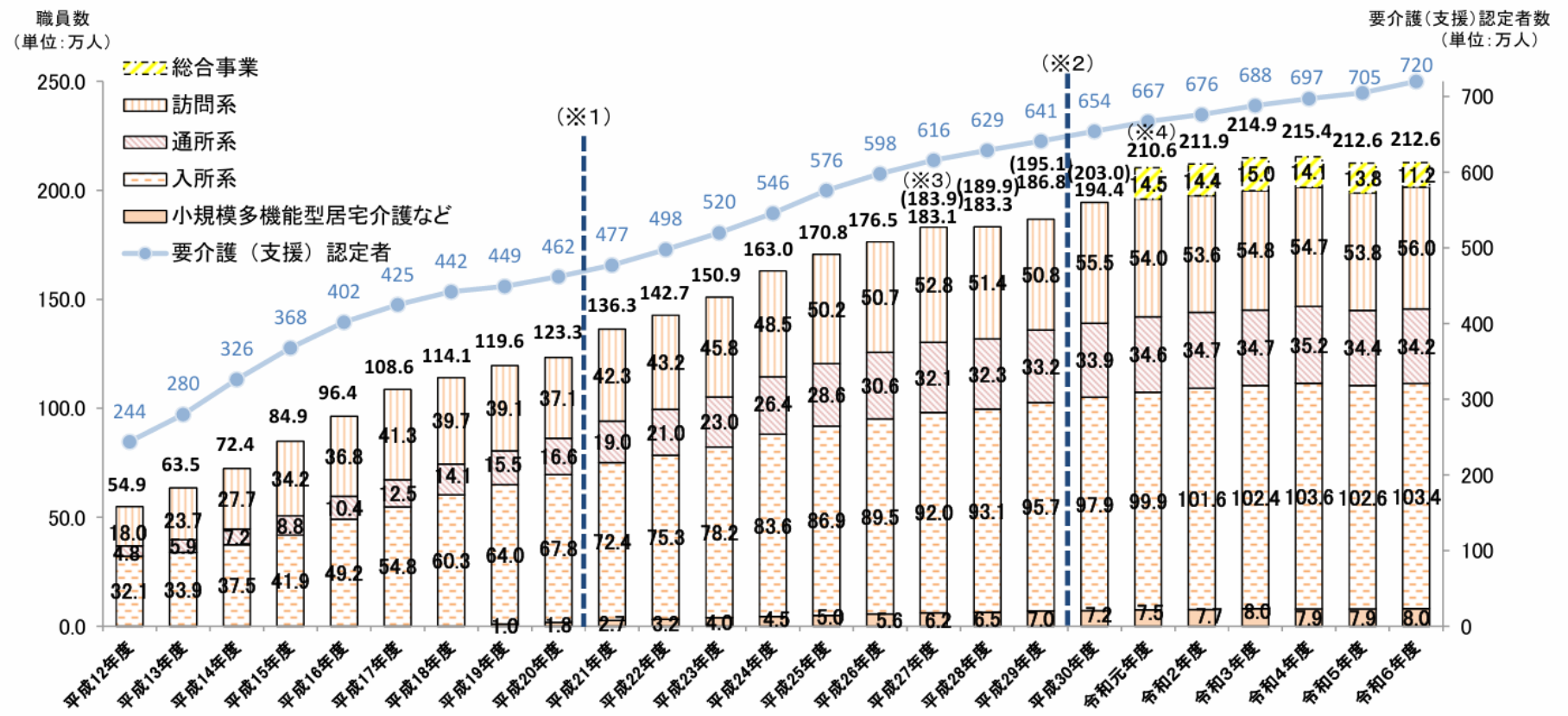
(出典)総務省「国勢調査」「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 平成29年推計」

直面する課題と介護テクノロジー～生産性向上の必要性について

介護職員数の推移

別紙

○ 本表における介護職員数は、介護保険給付の対象となる介護サービス事業所、介護保険施設に従事する職員数。



注2) 調査方法の変更に伴い、推計値の算出方法に以下のとおり変動が生じている。【中央】厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」(「介護職員数」)、「介護保険事業状況報告」(要「介護(要支援)認定者数」)

平成12～20年度	「介護サービス施設・事業所調査」(介サ調査)は全数調査を実施しており、各年度は当該調査による数値を記載。
平成21～29年度	介サ調査は、全数の回収が困難となり、回収された調査票のみの集計となったことから、社会・援護局において全数を推計し、各年度は当該数値を記載。(※1)
平成30年度～	介サ調査は、回収率に基づき全数を推計する方式に変更。(※2)

注3) 介護予防・日常生活支援総合事業(以下「総合事業」という。)の取扱い

平成27～30年度	総合事業(従前の介護予防訪問介護・通所介護に相当するサービス)に従事する介護職員は、介サ調査の対象ではなかったため、社会・援護局で推計し、これらを加えた数値を各年度の()内に示している。(※3)
令和元年度～	総合事業も介サ調査の調査対象となったため、総合事業(従前の介護予防訪問介護・通所介護相当のサービスを本体と一体的に実施している事業所に限る)に従事する介護職員が含まれている。(※4)

直面する課題と介護テクノロジー～生産性向上の必要性について

「生産性向上」 = 「業務改善」 = 「介護の価値を高めること」

製造業等における生産性向上

生産性の代表的な定義は「生産性とは、生産性諸要素の有効利用の度合いである」(ヨーロッパ生産性本部) というものである。

(公益財団法人 日本生産性本部HP)

$$\text{生産性} = \frac{\text{産出 (output)}}{\text{投入 (input)}}$$

■ 物的生産性

労働生産性 (1時間あたり)

$$\frac{\text{生産量}}{\text{労働者数} \times \text{労働時間}}$$

■ 付加価値生産性

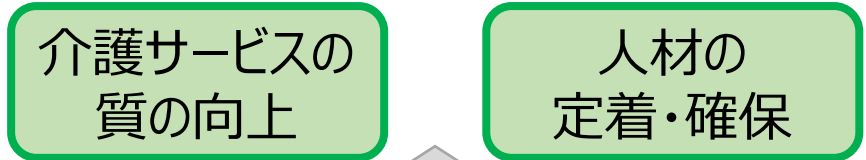
労働生産性 (1時間あたり)

$$\frac{\text{付加価値額}}{\text{労働者数} \times \text{労働時間}}$$

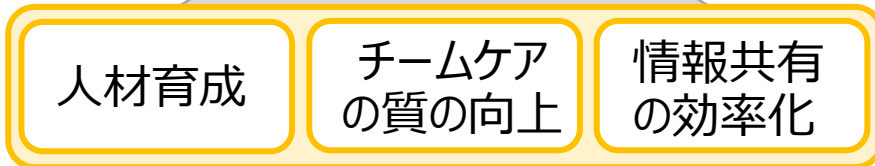
介護現場における生産性向上

本ガイドラインでは(中略)、介護サービスの生産性向上を「介護の価値を高めること」と定義しています。

(介護サービス事業における生産性向上ガイドラインより引用)



働く人のモチベーションの向上
楽しい職場・働きやすい職場づくり

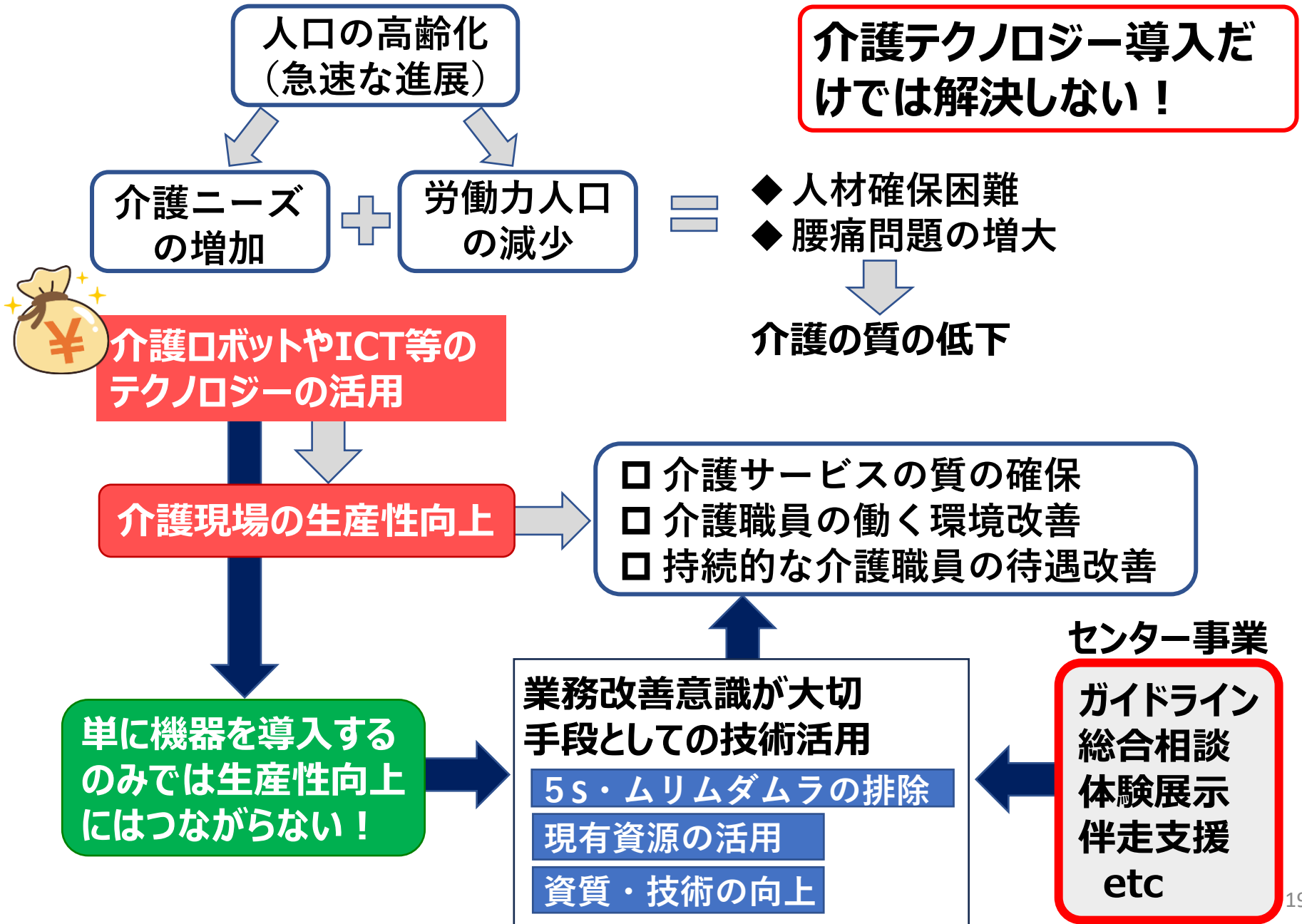


業務の改善活動

業務改善の取組

- 1 職場環境の整備
- 2 業務の明確化と役割分担
- 3 手順書の作成
- 4 記録・報告様式の工夫
- 5 情報共有の工夫
- 6 OJTの仕組みづくり
- 7 理念・行動指針の徹底

直面する課題と介護テクノロジー～生産性向上の必要性について



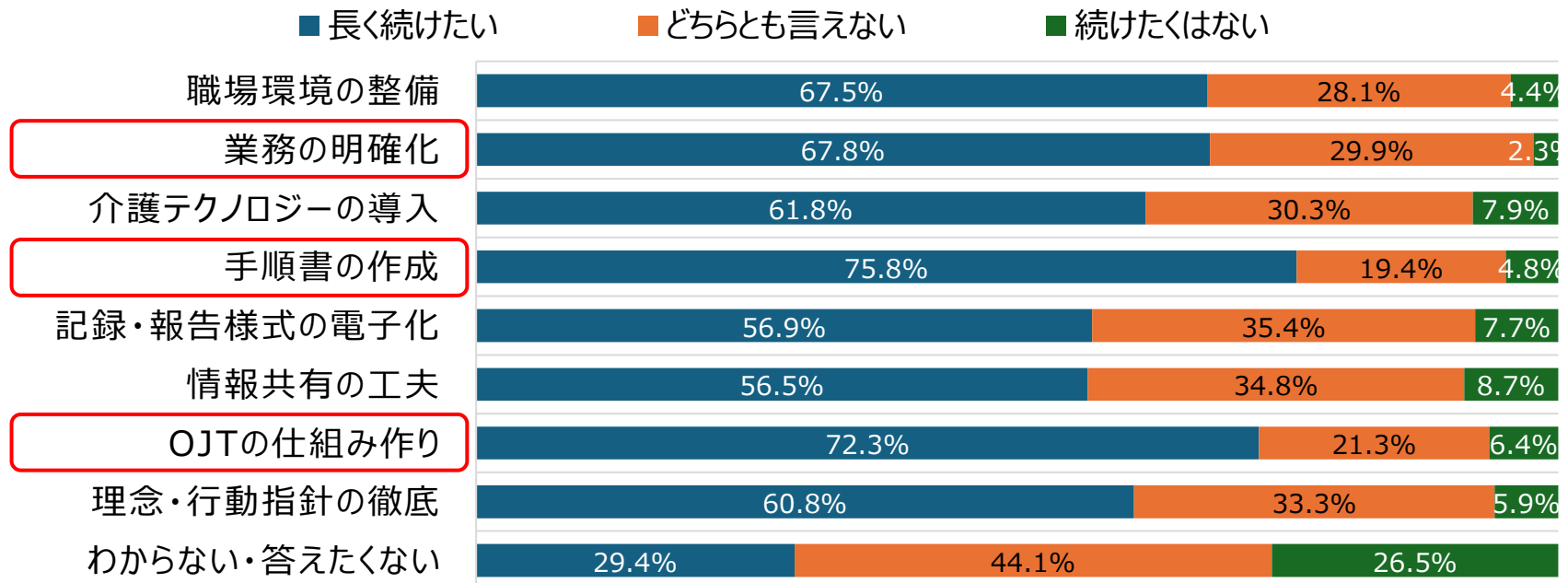
直面する課題と介護テクノロジー～生産性向上の必要性について

業務改善 7つの取り組み

- 1 職場環境の整備
- 2 業務の明確化と役割分担
- 3 手順書の作成
- 4 報告・記録様式の工夫
- 5 情報共有の工夫
- 6 OJTの仕組みづくり
- 7 理念・行動指針の徹底

介護ロボット・ICT機器等が介護職員の就業意識に与える影響についてのアンケート調査
(令和7年1月 n = 260)

職場継続意識と業務改善の取り組みの関係



直面する課題と介護テクノロジー～生産性向上の必要性について

目指す姿は

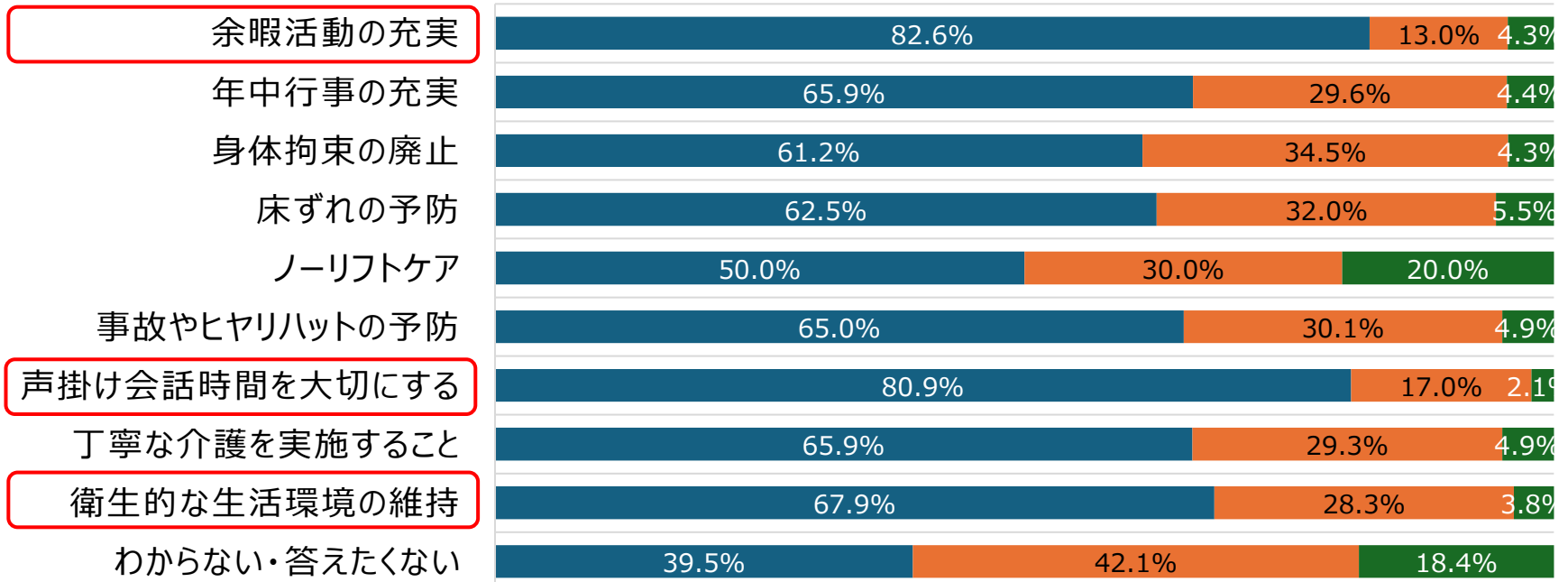
働きやすい
職場

+

やりがいの
ある仕事

介護ロボット・ICT機器等が介護職員の就業意識に与える影響についてのアンケート調査
(令和7年1月 n = 260)

職場継続意識とケアの質向上の取り組みの関係



Chapter 2

どれが使える？ 機器を選ぶ前にやるべきこと

業務改善「7つの取組」

1 職場環境の整備

2 業務の明確化と役割分担

3 手順書の作成

4 報告・記録様式の工夫

5 情報共有の工夫

6 OJTの仕組みづくり

7 理念・行動指針の徹底

**介護テクノロジーは「業務改善」に取り組むための手段
「導入すること」が目的になってはいませんか？**

どれが使える？ 機器を選ぶ前にやるべきこと

業務改善「7つの取組」

① 職場環境の整備

取組前

取組後



② 業務の明確化と役割分担 (1) 業務全体の流れを再構築

介護職の業務が
明確化されて
いない業務を明確化し、
適切な役割分担を
行いケアの質を向上

② 業務の明確化と役割分担 (2) テクノロジーの活用

職員の心理的
負担が大きい職員の心理的
負担を軽減

③ 手順書の作成

職員によって異なる
申し送り申し送りを
標準化

④ 記録・報告様式の工夫

帳票に
何度も転記タブレット端末や
スマートフォンによる
データ入力（音声入
力含む）とデータ共有

⑤ 情報共有の工夫

活動している
職員に対して
それぞれ指示インカムを利用した
タイムリーな
情報共有

⑥ OJTの仕組みづくり

職員の教え方に
ブレがある教育内容と
指導方法を統一

⑦ 理念・行動指針の徹底

イレギュラーな
事態が起こると
職員が自身で
判断できない組織の理念や行動
指針に基づいた
自律的な行動

「利用者の安全並びに介護サービスの質の確保および職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会」の設置義務化

どれが使える？機器を選ぶ前にやるべきこと

介護テクノロジーの
導入分野は限られる



活用し成果を上げるには組織全体の「業務の改善活動」が必要

①職場環境の整備

取組前

取組後



②業務の明確化と役割分担 (1)業務全体の流れを再構築

介護職の業務が
明確化されて
いない



業務を明確化し、
適切な役割分担を
行いケアの質を向上



②業務の明確化と役割分担 (2)テクノロジーの活用

職員の心理的
負担が大きい



職員の心理的
負担を軽減



③手順書の作成

職員によって異なる
申し送り



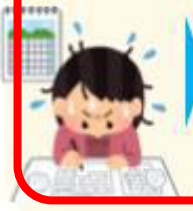
申し送りを
標準化



④記録・報告様式の工夫

帳票に
何度も転記

タブレット端末や
スマートフォンによる
データ入力（音声入
力含む）とデータ共有



⑤情報共有の工夫

活動している
職員に対して
それぞれ指示



インカムを利用した
タイムリーな
情報共有



⑥OJTの仕組みづくり

職員の教え方に
ブレがある



教育内容と
指導方法を統一



⑦理念・行動指針の徹底

イレギュラーな
事態が起こると
職員が自身で
判断できない



組織の理念や行動
指針に基づいた
自律的な行動



どれが使える？機器を選ぶ前にやるべきこと

委員会の運営にあたって参考となるポイントや具体的な取組の事例をまとめた資料

「利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会」のポイント・事例集

委員会の運営にあたって参考となるポイントや具体的な取組の事例をまとめた資料を公表

利用者の安全並びに 介護サービスの質の確保及び 職員の負担軽減に資する方策を 検討するための委員会の ポイント・事例集



従来から生産性向上の取組を進めている事業所においては、令和6年度介護報酬改定における制度改正以前より、生産性向上の取組を進めるための委員会を設置及び開催している事例もあり、実際の取組事例を掲載（14事例）

生産性向上のための委員会で想定される議題

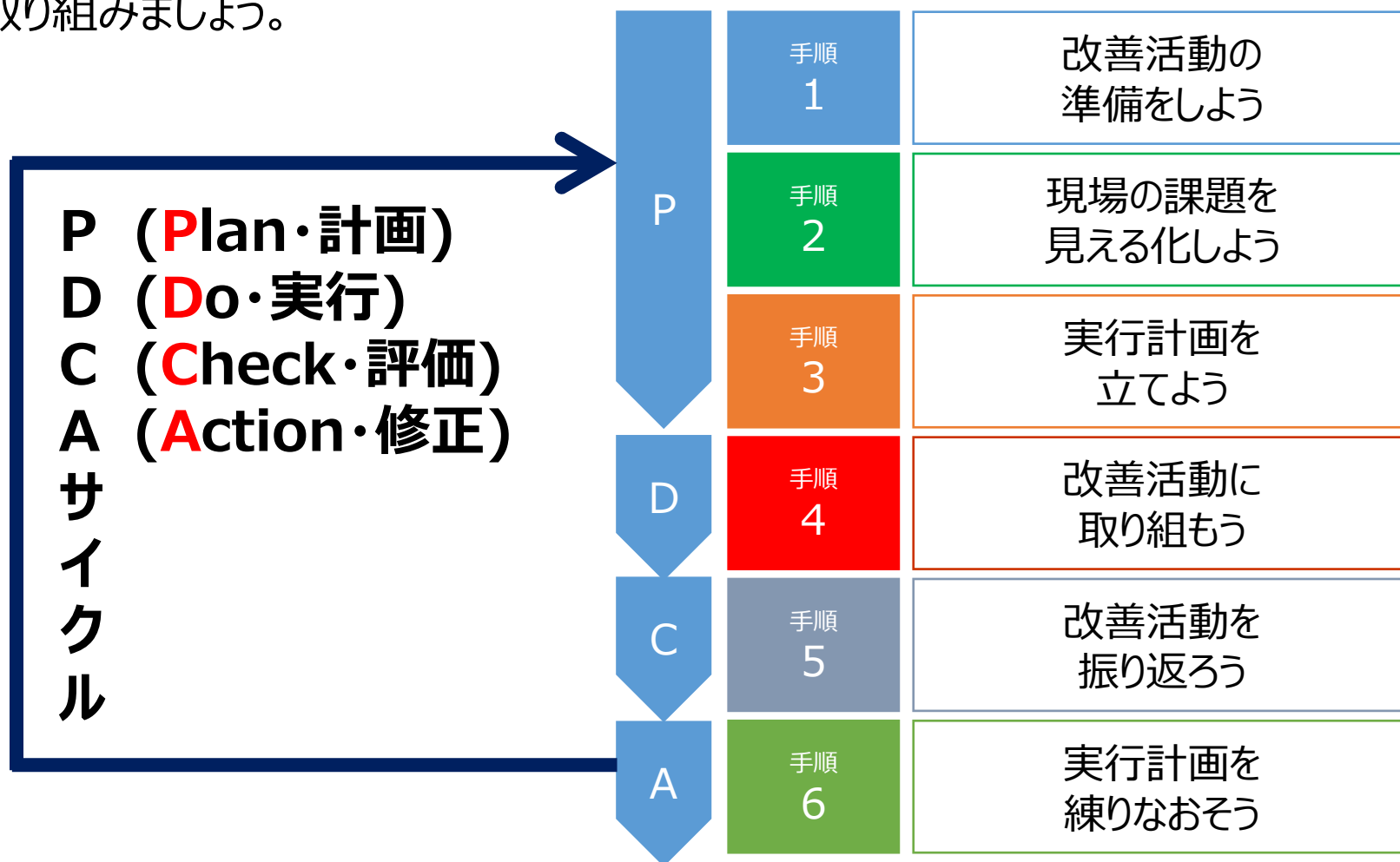
- 1 課題分析(見える化)・役割の明確化と役割分担・導入するテクノロジー等の検討
- 2 役割分担の見直しやシフトの組替の検討※、テクノロジー等を導入する範囲や使用する利用者の検討
- 3 生産性向上の取組に関する実行計画の検討・策定
- 4 導入したテクノロジー等の使い方に対する教育・研修の実施
- 5 テクノロジー等の使い方の改善に関する検討
- 6 テクノロジー等を活用したケアの改善に関する検討
- 7 導入したテクノロジー等の効果検証(職員や利用者等の観点からの課題・効果等の情報の共有)
- 8 ヒヤリハット・事故防止のための検討
- 9 その他、法人または施設・事業所で必要と判断した事項

どれが使える？機器を選ぶ前にやるべきこと

業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ

改善活動の手順とポイント

何度も繰り返しPDCAサイクルを回すことで、継続的に改善活動に取り組みましょう。



どれが使える？機器を選ぶ前にやるべきこと

業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ

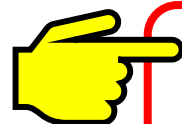
P	手順 1	改善活動の準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

プロジェクトチームの立ち上げ経営層が取り組みを宣言しよう！

- プロジェクトは短期集中型から
- メンバーは現場の中核人材
- 「問題意識」と「前向きさ」が大切
- 位置づけと役割分担を明確に
- 福祉用具や機器操作の得意人物

経営層とプロジェクトチームの事前の話し合いはとても大切です

- 取り組む課題、プロジェクトの目的
- 対象とする範囲や予算



事業所のみんなが知っていて、みんなが応援する体制づくり。
「どうせ続かない」と思われないように

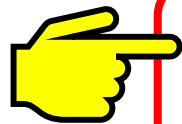
Chapter 3

課題の可視化と共有 ～ワークショップってどうやるの？～

課題の可視化と共有～ワークショップってどうやるの？～

業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ

P	手順 1	改善活動の準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう



**「見える化」と同時に
「共有」が大切**

○因果関係図

課題を整理、取り組む課を
構造化・見える化
⇒活用ツール
「気づきシート」



○業務時間調査

職員の業務を定量的に把握する
⇒活用ツール
「業務時間見える化ツール」

○腰痛リスクチェック

リスクの高い作業とリスク内容を見える化
⇒活用ツール
「腰痛対策チェックリスト」

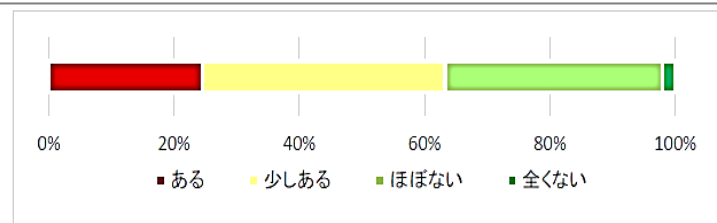
課題の可視化と共有～ワークショップってどうやるの？～

腰痛対策チェックリスト

⑦腰痛有訴率

ある 24.5%

ある+少しある 63.3%



4.介護作業別リスク評価

リスク評価	客観的評価				主観的負担感				改善優先度	
	回答人数				高	中+高	感じる	少し感じる +感じる		
	高	中	低	計						
着衣時の移乗介助	2	13	19	34	5.9%	44.1%	11.8%	61.8%	中	
非着衣時の移乗介助	0	14	11	25	0.0%	56.0%	12.0%	76.0%		
移動介助	0	7	31	38	0.0%	18.4%	7.9%	50.0%		
食事介助	0	2	27	29	0.0%	6.9%	0.0%	17.2%		
体位変換	1	5	23	29	3.4%	20.7%	10.3%	48.3%		
清拭・整容・更衣介助	0	11	20	31	0.0%	35.5%	6.5%	35.5%		
オムツ交換	1	10	13	24	4.2%	45.8%	16.7%	91.7%		中
トイレ介助	2	17	15	34	5.9%	55.9%	14.7%	55.9%		中
入浴介助	1	16	11	28	3.6%	60.7%	25.0%	71.4%		高
送迎業務	0	8	9	17	0.0%	47.1%	5.9%	29.4%		—
生活援助	0	4	23	27	0.0%	14.8%	0.0%	18.5%		
その他	2	3	3	8	25.0%	62.5%	—	—		—

Chapter 4

効率は下がってから上がる ～導入計画の大切さ～

導入プロセスのNG集

- 計画が無いまま導入
(ぜったいNG)
- 課題が共有されていない
(何のために努力をするのか)
- いきなり現場で活用
(効率低下をカバーできない)
- 効果を実感できないまま全員に広げる
(使いたくない職員の声が強くなる)

導入プロセスの成功ポイント

- 時間経過を念頭に入れた計画
(いつ、だれが、なにを、どこまで・・・)
- 課題とテクノロジーの位置づけを明確化
(テクノロジーは手段)
- 限定メンバーで取り組みやすい場面から
(まずは効果を実感することが大切)
- 効果を経験することが努力につながる
(最初から100%を目指さない)

効率は一時的に下がってから上がる～導入計画の大切さ～

業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ

P	手順 1	改善活動の準備をしよう
	手順 2	現場の課題を見える化しよう
D	手順 3	実行計画を立てよう
	手順 4	改善活動に取り組もう
C	手順 5	改善活動を振り返ろう
A	手順 6	実行計画を練りなおそう

⇒活用ツール

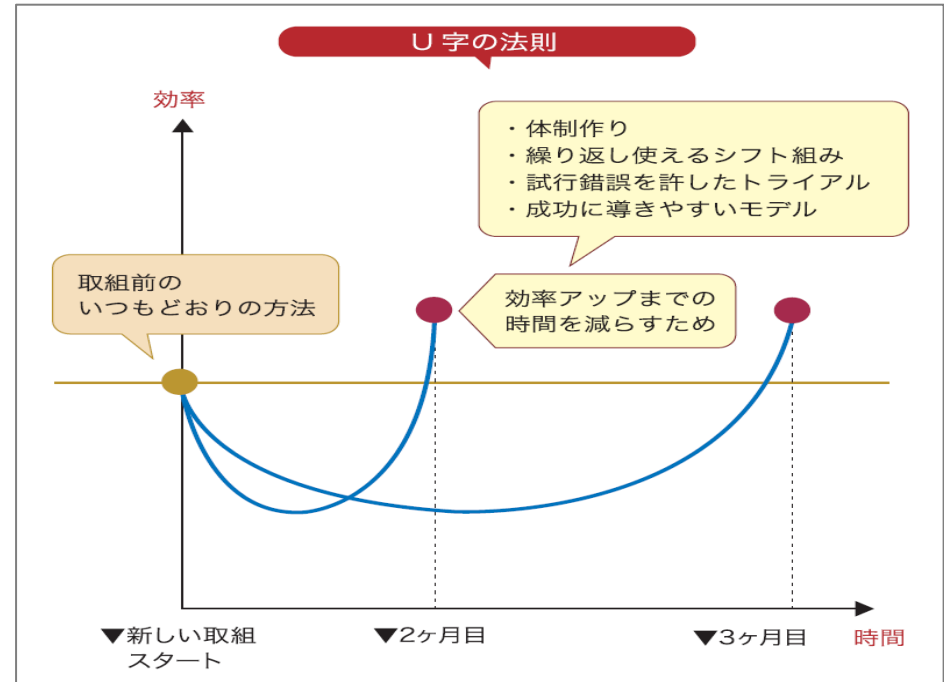
「改善方針シート」

課題解決までの道筋を整理する

「進捗管理シート」

成果を測定する指標を定める

具体的な目標とスケジュールの設定 作業環境・作業手順・OJT計画など



新しい取り組みには「試行錯誤」はつきもの、一時的な効率低下は必ずあるものとして考えましょう。

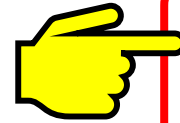
効率は下がってから上がる～導入計画の大切さ～

業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ

P	手順 1	改善活動の準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実践

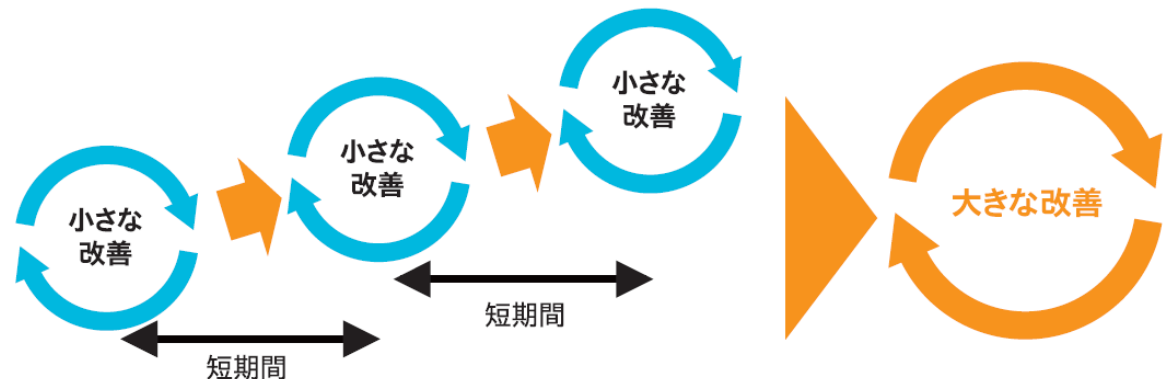
「まずはとにかくやってみる」

あとは走りながら
「試行錯誤を繰り返す」



小さな改善事例を作り、
積み重ねるイメージ

● 小さな改善を積み重ねるイメージ図



最初の計画にこだわらず、短期間で小さな改善を積み重ねましょう

【参考】U字の谷を乗り越えた先達のことは

「機能の本質にたどり着く前の葛藤」

砧ホームさんの取組みから (鈴木健太施設長 (当時) のことば)
令和5年度介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰

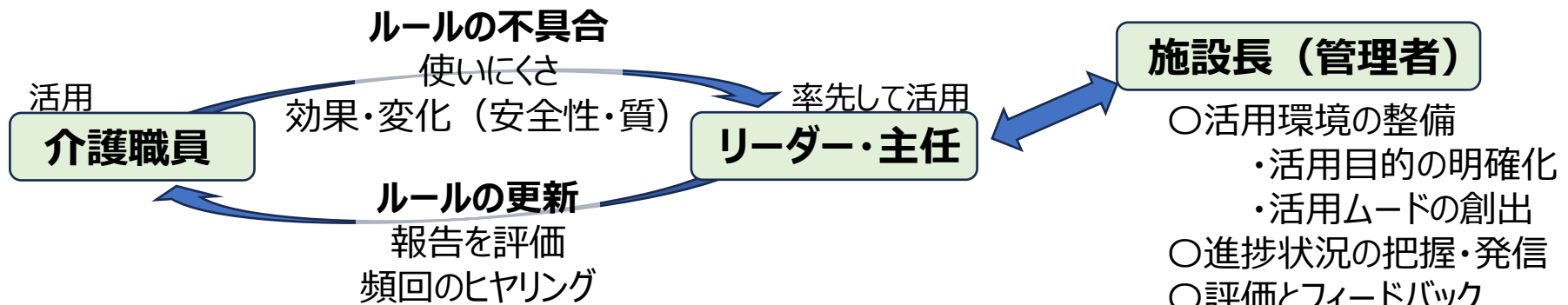


共用上のルールが活用を促進させる

- 装着に時間が掛かる
- 使いたい時にない
- エアポンプが落ちる
- ポケットが使えない
- 汚れが気になる

継続的な ルール の更新

- 使用後はベルトを緩める
- 動線を考えて配置する
- エアポンプに輪ゴムを巻く
- ウエストポーチを準備する
- 使用後に消毒、消臭する



【参考】U字の谷を乗り越えた先達のことは

「生産性向上にはゴールはなく「文化」にしていくことが重要」

もくせいさんの取り組みから（伊藤浩一施設長のことは）

令和7年度介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰



令和3年 ベッド稼働率アップを目指し「眠りスキャン」全床導入

→ 1年たっても稼働率改善せず逆に悪化

※データが活用されていなかった（**その場で活用のみ**）

令和4年 取り組みの開始 ～なぜ改善しないのか？

→ 課題の分析

- ①現状維持の組織風土
- ②施設長、介護課、相談室の連携不足
- ③強みを活かすきれない組織体制



**組織
変革**

変わることができる組織へ
自発的に動ける組織へ
強みが明確な組織へ

令和5年 成果

稼働率の回復
巡視訪室回数減
宿直業務廃止・・・

良くも悪くも現状維持

今までのままだも業務
は回っているし・・・。
新しいことをすると利用
者にも負担が・・・。



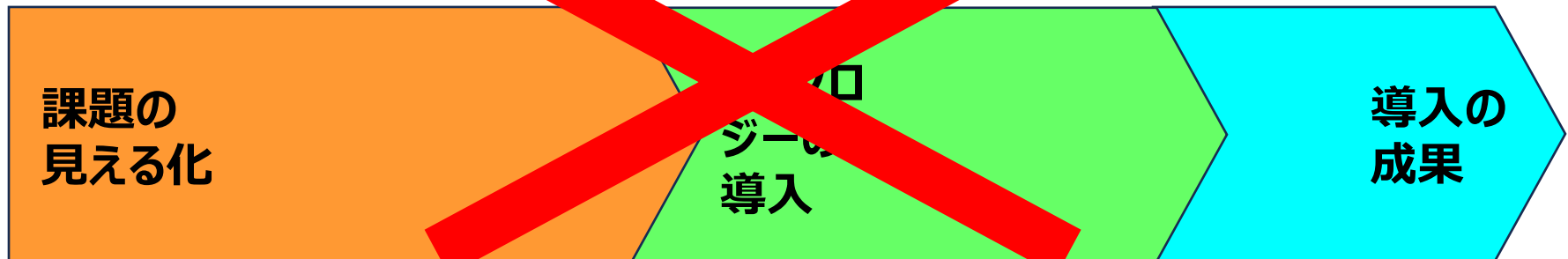
生産性向上を組織の「文化」に！

「気づく文化」
「気づきを共有できる文化」
「変わることができる文化」

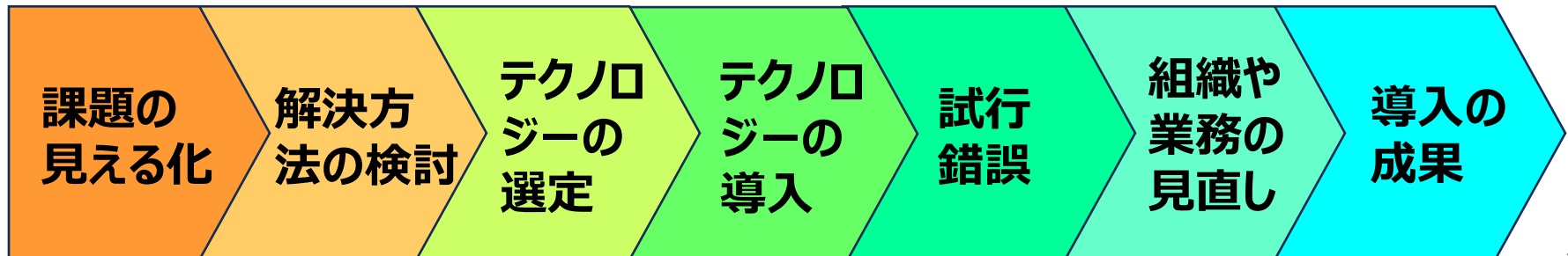
Chapter 5

似ているけど違う ～介護テクノロジー選定のポイント～

テクノロジーを導入すると業務の改善ができる？



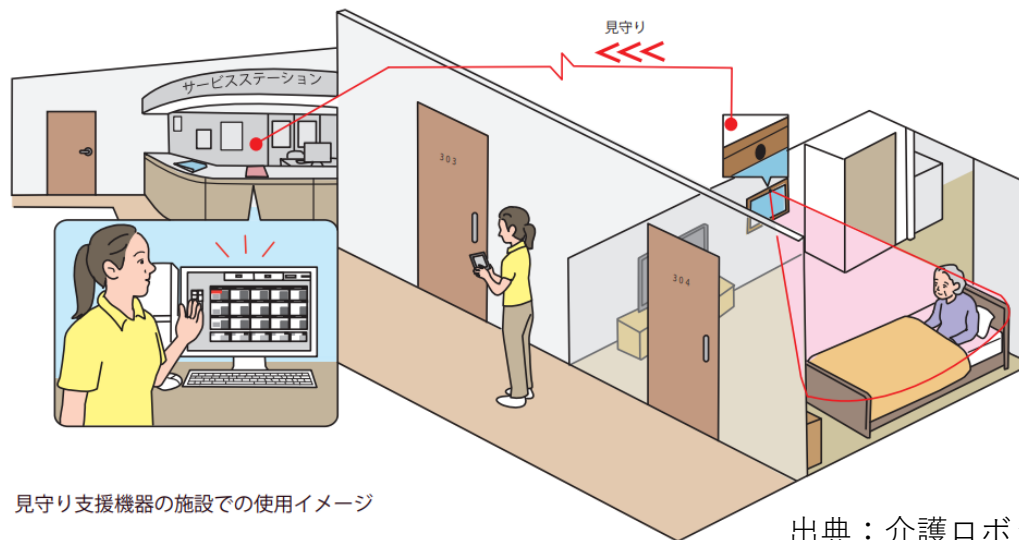
業務改善のためのテクノロジー導入・活用のプロセス



似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

例

見守り支援機器（ベッドセンサー）



見守り支援機器の施設での使用イメージ

出典：介護ロボット重点分野別 講師養成テキスト

○施設での見守りに関する課題

- 入居者の離床による転倒事故（スタッフが離床に気づかない）、再発予防策検討
- 入居者体調急変の見落とし（看取り対応含む）
- コールを使えない入居者への対応
- 体調変化や転倒などについての家族への説明対応



巡視のみの対応

- 少人数対応の時間的、身体的、精神的な負担増
- 夜間巡視による安眠阻害（日中の活動低下）
- 同時コールへの対応優先がわからない

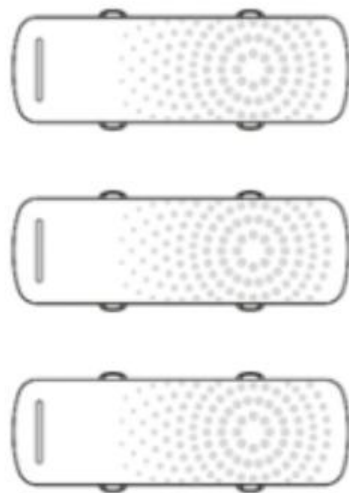
似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

見守り支援機器の概要

①シート式の例



センサー



居室（ベッド）

パソコン



スタッフルーム

スマホ



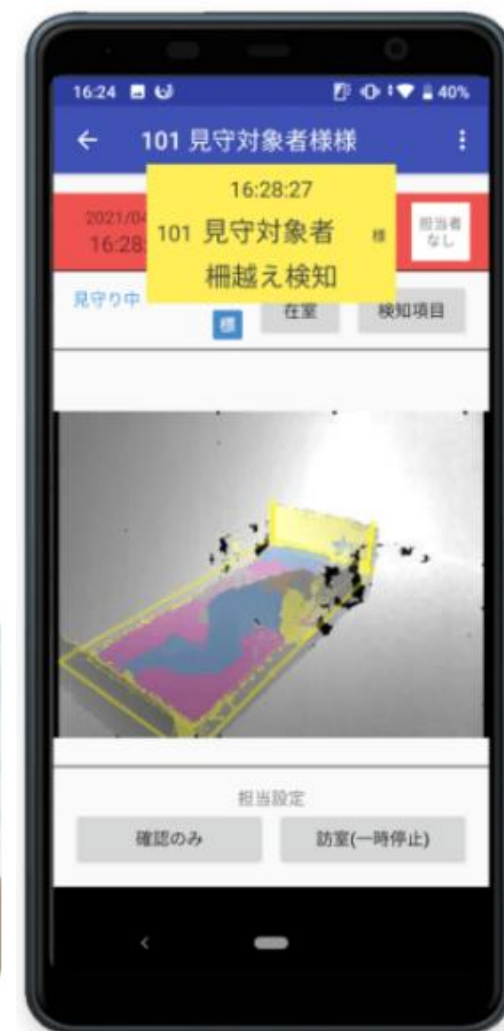
モバイル



似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

見守り支援機器の概要

②カメラ式の例



似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

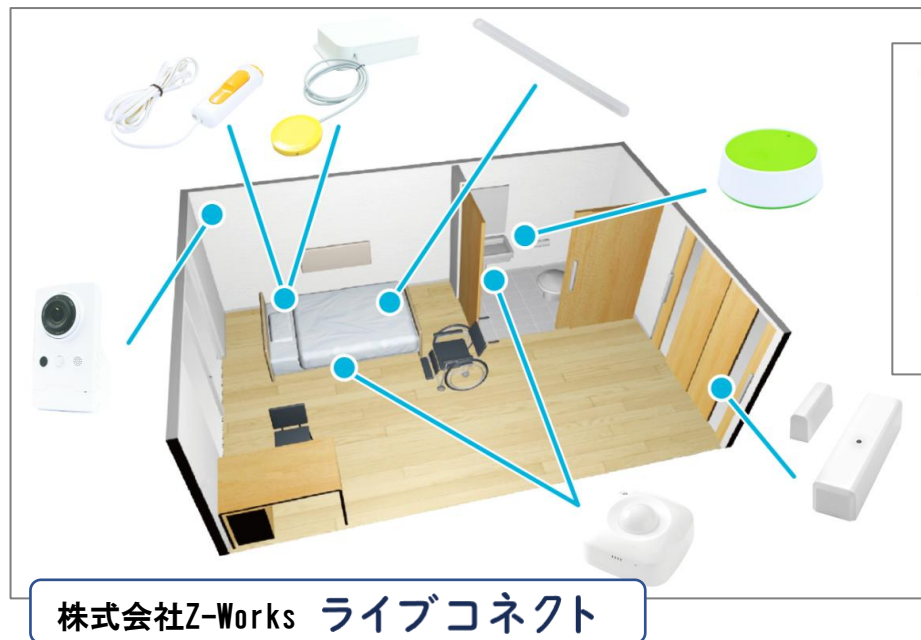
見守り支援機器の概要

③その他の例

ベッドにセンサーが組み込まれているベッド一体型や、ベッドの脚部に設置するタイプなど。



リコーみまもりベッドセンサーシステム **RICOH**



株式会社Z-Works ライブコネクト



人感センサーなど複数のセンサーを組み合わせ、離床動作のほかに室温やドア開閉などを総合的に把握することを目的とするシステム

似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

見守り支援機器の基本機能

① 入居者の離床などの動きがわかる

- 感知項目は機種により異なる

主な感知項目 ベッド上～体動、起き上がり、端座位、立ち上がりなど
居室内～移動、転倒、うずくまり

【参考例】



起き上がり 端座位 離床 柵越え ずり落ち



転倒 うずくまり 入室 退室 生体異常 (オプション)

積水化学工業株式会社 ANSiEL

ノーリツプレジジョン株式会社 Neos+Care

- 通知スピード (タイムラグ) は機種により異なる
施設内の通信環境によっても異なる

※通信環境によって異なるため、カタログには明示されていないことも多いので、実際に試用して確認することをお勧めします。



積水化学工業株式会社 ANSiEL

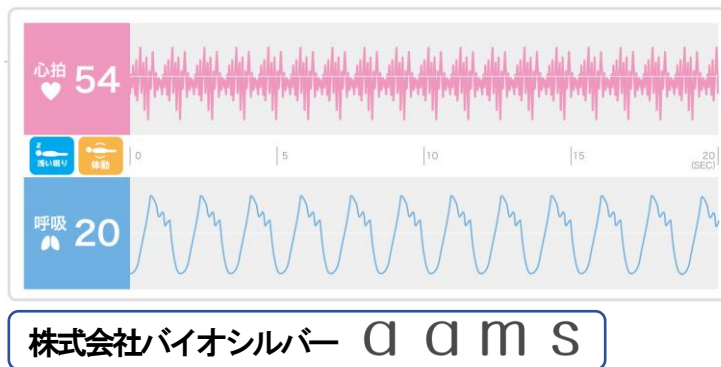
似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

見守り支援機器の基本機能

②入居者の呼吸数と心拍数がわかる

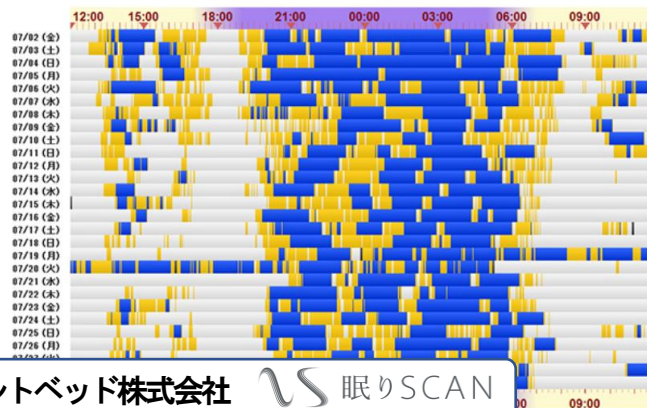
- 「バイタル」という言葉に注意

※血圧と体温は、現段階では非接触かつ自動で把握できるものはない（と思う。）

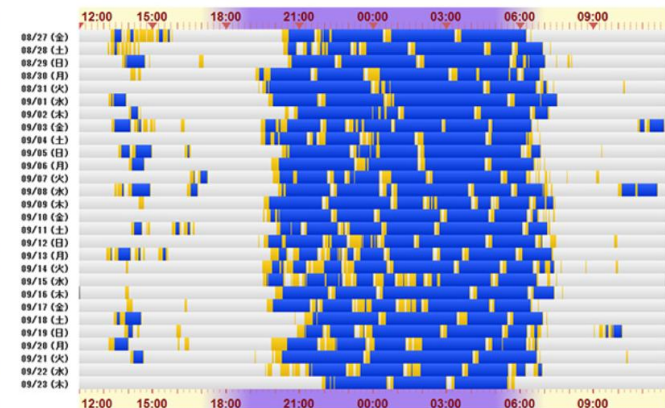


- 体動などの情報と合わせ、眠りの深さを視覚化できる

サービス改善前の睡眠日誌



サービス改善後の睡眠日誌



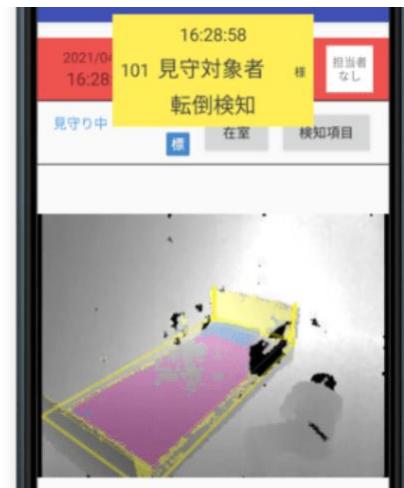
似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

見守り支援機器の基本機能

③ 記録がとれる

- 転倒時の様子など画像が残せる
ヒヤリハットや事故予防、家族への説明等に活用

ノーリツプレジジョン株式会社  Neos + Care



- バイタルや安眠具合の時系的変化を確認できる
ケアの質向上の視覚化、アセスメント情報としてケアプランに反映



似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

見守り支援機器の選定

★ハイブリッド方式が続々登場

- 「シート式」のセンサーに、体動や離床の通知に連動するカメラを組み合わせたシステム
- 「シート式」のセンサーに離床を感知するセンサーを組み合わせて、報知スピードを向上させたシステム



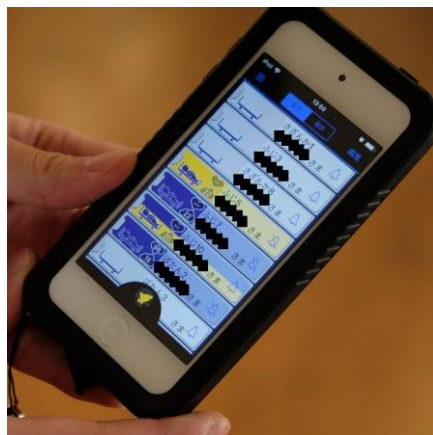
似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

見守り支援機器の選定 端末

- ◆ パソコン～複数の入所者を一画面で管理しやすい
大型モニターで管理するケースもあります。



- ◆ スマートホン～どこにいても対応できる



- ◆ タブレット～記録入力しやすい



似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

R7年度補助事業者相談・ヒヤリングから
「課題の見える化」が十分ではない

《例》「夜勤の負担を軽減したい」→「夜勤の負担」とは何か？

①身体的負担（体力面）

夜間の巡視（ラウンド）
排泄介助（オムツ交換、トイレ誘導）
体位変換
早朝ケア起床介助

②睡眠・生活リズムの負担

昼夜逆転による疲労蓄積
連続夜勤による慢性的疲労

③精神的負担

少人数での責任の重さ
急変対応への不安
認知症による夜間行動への対応

④業務量の負担

夜勤時間の業務集中
日中の記録の補足
翌日の準備
洗濯や物品補充
朝の申し送り

⑤事故リスクの高さ

転倒ベッドからの転落
徘徊
急変

「夜勤の負担」= ① × ② × ③ × ④ × ⑤ （掛け算の答え）

似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

R7年度補助事業者相談・ヒヤリングから

「テクノロジーに合わせた業務見直し」が十分ではない

《例》 転倒事故を防ぐことが目的！

「手が離せないタイミングでの離床センサー反応」にどう対応？

① 今まで経験していない状況にどのように対応するのか？

→「職員個人のその場の判断」で本当に良いのか？

→事故になってしまった場合は「職員個人の判断ミス？」

② 「カメラ画像を見て判断」

→判断の基準は？ 「経験値」に頼って良いのか？

手順を決めてルールを作る

➤ ルールの通りに行動しても防げなかった = 組織的責任

➤ ルールを守らない対応 = 職員個人の責任 (+管理責任)

「事故を100%防ぐことはできない」を前提にした対応

似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

R7年度補助事業者相談・ヒヤリングから

課題と選んだテクノロジーの機能・特性がミスマッチ

《例》 離床したらすぐ駆け付けたいので

「バイタル取得センサー型」見守り機器を導入します！

①バイタル型は「バイタル取れなくなったら離床と判断」が基本

→頻回な「起き上がり」で報知設定し対応？

→「浅い眠り」に移行したら要注意、先手対応？

方法論としては
これもあり

②バイタル型は「眠りの質」をとらえ、覚醒して動き出すタイミングをつかむ

→呼吸状態から体調の悪化を予測する等の機能もある

→日中の活動量を上げ、安眠を促し、離床を抑制するケアにつなげる

テクノロジーには「得意分野」「不得意分野」がある

➤「よく知らない」のに「良い」「使える」と思い込んでいませんか？

➤カタログに「できる」と書いてあっても「不得意」な時もある

自分たちの目でしっかり調べ、試し、吟味して選ぶことが大切

似ているけど違う、介護テクノロジー選定のポイント

R7年度補助事業者相談・ヒヤリングから

「あとは現場で使いながら慣れてもらう」は危険！

《例》 納品時にメーカーさんに説明してもらって、

あとは現場で**「使いながら」**少しずつ慣れてもらう・・・**これ無理！**

①「慣れるまでは、業務効率が落ちる」ことへの対応が必要

→「今までの業務が回らない」から使わなくなる

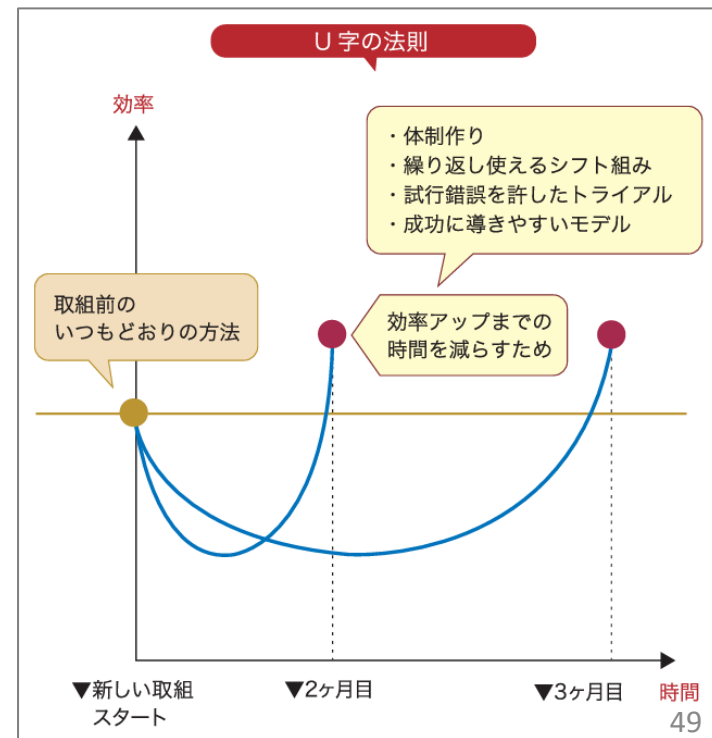
②「OFF-JT」と「O-JT」の組み合わせ

→「OFF-JT」～定期的に課題を共有し解決する会議が必要

→「O-JT」～「一定期間、得意な人と組む」など計画的な対応が必要

**業務見直しの課題は現場だけで
解決できない**

**業務見直しに手を付けなければ
「業務改善」につながらない**



おわりに

R6年度補助事業者アンケートから

4. 「想定を超える効果が得られた」「ほぼ想定通りの効果が得られた」回答の詳細

③導入プロセスで、効果的だった取り組みや工夫（自由記載）

- ◆ 申請時点で、社内で使用していたノートパソコン製品の中から、**職員に聞き取り**をはかり、最も使いやすさを確認した製品を導入した。
- ◆ 業務改善のための委員会の設置（**役職にこだわらない委員会メンバーの募集**）
- ◆ 生産性向上推進**委員会を立ち上げ現場からの問題点の吸い上げと分析**により導入した為、良い結果に結び付ける事が出来た。
- ◆ **勉強会の実施**、メリット、デメリットの共有
- ◆ 入所者の身体状況に合わせた入浴介助を行う方法を**話し合った**
- ◆ 理解しやすい説明書を作成した。
- ◆ **委員会**内で電子化の運用方法を検討しながら、現場や導入ソフト業者と相談し運用していったこと。
- ◆ テクノロジー機器の選定から導入を、**プロジェクトチームを稼働させ職員が主体的に行えたこと・施設による改革への意思表示**（旧態依然とした介護文化・制度に対し諦めかけていた空気感に改革の意思表示ができたことで職員が変化に対する期待値が向上している）

おわりに

R6年度補助事業者アンケートから

4. 「想定を超える効果が得られた」「ほぼ想定通りの効果が得られた」回答の詳細

③導入プロセスで、効果的だった取り組みや工夫（自由記載）

- ◆ 導入前、導入時に業者により有効性などの**勉強会を実施**
- ◆ 導入することによるメリットを使用するスタッフに都度伝えたこと
- ◆ タブレット、介護ソフトの使用について業者のデモを受けたことで、機器導入後すぐに使用できた。
- ◆ 成功例をいくつか作り、**達成感を持たせる**事で意識向上につながった
- ◆ 導入時に施設内研修で、全職員に介護テクノロジーの導入意味合い、使用方法、業務改善、を周知したことにより、導入後のスムーズな活用につながっている。
- ◆ **若手リーダーを巻き込んで**の導入が効果的と感じました。
- ◆ 導入前の情報収集、デモより**職員中心に評価**する（リスク回避、効果など実践、体験させること）、**テクノロジー・生産性向上・職場安全衛生委員会等**での意見交換より職員の導入への意識統一。
- ◆ ICT機器の導入にあたり、先ず、職員が機器の機能を十分に理解したうえで、適切な運用に繋げることができるよう、**運用前に複数回職員向けの研修を行った**。また、**独自の取扱いマニュアルを整備**したほか、導入効果を確認するために導入開始後、3か月後に**職員アンケートを実施**した。

グループワークで体験する 課題の「見える化」と 「共有」

- ◆介護業務の改善とテクノロジー導入のプロセスについて学びます。
- ◆「気づきシート」による「見える化」と「共有」をグループワークで体験します。

【日時】 各回同じ内容です。
ご都合に合わせてご参加ください。
① 6月25日(木) ② 7月8日(水)
13:20～16:00

【場所】 とちぎ福祉プラザ
第一研修室

【申込み】 開催日の3日前まで
先着順

※こちらのQRコードからお
申し込みください



令和8年度 栃木県介護生産性向上総合相談センター事業 介護テクノロジー導入支援セミナーのお知らせ

グループワークで体験する 課題の「見える化」と「共有」

業務改善や介護テクノロジーの活用で、働きやすく「やりがい」を感じられる職場づくりを目指す介護施設・事業所の方々を対象に、導入の基本プロセスの中でも特に重要な「見える化」と「共有」の方法を学びます。職場に持ち帰り実践できる内容です。

【内容】

- ◆ 介護業務の改善とテクノロジー導入のプロセスについて
- ◆ グループワークで体験する課題の「見える化」と「共有」

【対象】

- ◆ 介護事業所管理者、リーダー層、テクノロジー導入による職場環境改善に意欲のある方、補助金の申請を担当する方など
- ◆ できるだけ複数名でご参加ください

昨年度の様子はこちら
(YouTube動画)



講師
介サポとちぎ業務アドバイザー
伊藤 勝規

グループワークで
楽しく学びま
しょう。



日時：2回開催（同内容です。都合の良い回にご参加ください）

① 6月25日(木) ② 7月8日(水)

③ 未定 ④ 未定

各回とも13:20受付 13:30開始 16:00終了

場所：とちぎ福祉プラザ 第1研修室
グループワーク主体の内容なのでオンラインはありません

定員：各回 25名（先着順・最少実施人数10名）

参加費：無料

申込み：右のQRコード、またはセンターホームページの「お知らせ」から、
各回日程の1週間前までにお申込みください



お申込みQR

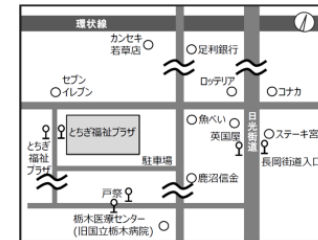
とちぎ福祉プラザモデルルーム 介護のしごとサポートセンターとちぎ

【運営主体】 NPO法人とちぎノーマライゼーション研究会
【開所時間】 9時～17時 土日祭日はお休みです

HP： <https://kaisapo.normalization.jp/>

✉ info@normalization.jp

TEL/FAX 028-627-2940



ご清聴ありがとうございました。

活動の最新情報をホームページ・SNSで発信中！



登録・フォロー よろしくお願いたします。

介護のしごとサポートセンターとちぎ
(NPO法人とちぎノーマライゼーション研究会)